

いにしえ湖南ものがたり

まつばらたなか いせき
松原田中遺跡



中世の水田が見つかる！

調査区全体に広がる洪水によってもたらされた砂を少しずつ掘り下げていくと、戦国時代（約500年前）以前の田んぼが見つかりました（下の写真）。鳥取県内では、この時代の水田の調査事例はほとんどなく、たいへん貴重な発見です。

田んぼは、大きい畦（あぜ）を中心に小さい畦で区画されています。現在の区画とは違うところがありますが、どこが違うかわかりますか？（正解はいちばん下にあります）。



戦国時代以前の田んぼ

また、田んぼは幾度となく洪水の被害にあったようですが、そのたびに田んぼをつくり直していることがわかりました。上の写真の田んぼの下からもさらに古い時代の田んぼが見つかり、出土した土器からは、鎌倉時代（約800～700年前）にさかのぼります。

さらに、この田んぼの下からは、弥生～古墳時代の土器がたくさん出土しています。その頃の田んぼもみつかるともかもしれません。



鎌倉時代の田んぼ



正解：田んぼの大ききや畦の位置・方向が違います。

鳥取西道路の

遺跡を掘る！

第17号 2010年9月20日

遺跡の調査をすると、昔使われていた銅銭が出土することがあります。

たとえば、甕などに銅銭を貯めた状態のものや、建物などを造るときに地鎮のために埋められたものです。

また、なかには、お墓からみつかることもあります。



お墓でみつかる銅銭

昨年度調査した松原小奥遺跡でみつかった中世以降のお墓でも銅銭がみつかっています。多くのものは、三途の川の渡し賃として葬られる人とともに棺桶に入れられていました。ところが、棺桶を入れる前のお墓の底に置かれたと思われるものがありました。銅銭は、ものの売り買いだけでなく、おまじないの時に使われることがあります。民俗学では、お金を使うことで場所や人が清められるとされ、神社におさい銭をすることや



墓の中から銅銭が出土したようす
（松原小奥遺跡）



重なった状態で
みつかった銅銭



そうか。
お金にも
いろいろな
使われ方が
あるんだ。

池などにお金を投げ入れたりすること、そうした考えのあらわれだと考えられています。

松原小奥遺跡の銅銭も、棺桶を穴に納める前に土地を鎮め、その場を清めるために行ったものと考えられます。

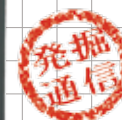
（財）鳥取県教育文化財団
調査室
美和調査事務所

〒680-1133
鳥取市源太 12 番地
（旧鳥取湖陵高校美和分校内）

TEL : 0857-51-7553
FAX : 0857-51-7550
メールアドレス：
matsuik@pref.tottori.jp

昨年調査した本高 14 号墳（前方後円墳）から出土した鏡の保存処理が終わりました。写真はその鏡の裏側で、その文様から内行花文鏡（ないこうかもんきょう）と呼ばれる鏡とわかりました。

詳しくは次号以降にご紹介します。



内行花文鏡

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

埋もれた太古のくらし

もとだかゆみのき いせき

本高弓ノ木遺跡



謎の四角い高まり



内側の白線が高まりの範囲です

5区の北西隅で、土を盛り上げてつくった四角い高まりがみつかりました。高まりの周囲には、幅5mほどの溝がめぐっています。高まりは東西20m、南北18mほどの長方形をしており、四隅が外側へ細長く突き出ています。また、高まりを囲むように石が並んでいる部分もありました。



上からみると、この高まりは四隅突出型墳丘墓（よすみとっしゅつがたふんきゅうぼ）と呼ばれる、弥生時代後期（約2000～1800年前）の有力者のお墓とよく似た形をしています。ただし、このお墓の多くは山や丘陵の上につくられることが多く、平地でみつけることはあまりありません。

これからいよいよ高まりを掘っていきます。盛り上げられた土の下から人が葬られた跡がみつければ、これまでに鳥取県内では例のない平地につくられた墳丘墓ということになりますが、はたして!?

のさかがわ 野坂川を見下るす古墳

みやだに

ごうふん

宮谷26号墳



供えられた須恵器

墳頂部に2つの埋葬施設があることを確認しました。現在、そのうちの1つを調査中です。

掘り始めると、移植ゴテに「コツン」と手応え。ていねいに土を取り除くと、長さ180cmほどの埋葬施設の中には、たくさんの須恵器が埋まっていた。横倒しになったり、割れたりしたものがあので、棺の上に並べ置かれていたものが、蓋の腐蝕（ふしょく）によって内側に落ち込んでしまったとも考えられます。

この須恵器で何をお供えしていたのでしょうか？ヒントは何も残されていませんでしたが、もしかすると、水筒のような形をした提瓶にはお酒、高杯には故人の好物が盛りつけられていたのかもしれません。



埋葬施設内から出土した須恵器

池のほとりに住んだ人々

たかずみひらた いせき

高住平田遺跡



川の中に並ぶ柱列

古代から中世に流れていた川跡を掘り進めると、直径20～30cmの丸太が立った状態でみつかりました。このうちの4本が川の流れをさえぎるように一直線に並んでいます。

上部の構造はわかりませんが、川を渡るための橋の脚部、または田んぼなどに水を引くために造られた堰（せき）の可能性があります。周辺の調査を進めていくことで明らかにできればと考えています。



柱列がある岸には30cmほどの石が2個あります。これらも柱列と関係するのかもしれませんが



並んでいる柱のようす



柱列のまわりからは奈良時代の土器が多くみつかりました。

まばゆく輝く銅銭



中世の田んぼの土から銅銭がみつかりました。これまでに5枚みつかっていて、調査地全体に散らばっていました。

当時の人たちが田んぼを耕したりしているときに落としたものでしょうか？それとも、おまじないのために埋めたものなのでしょうか？

さて、遺跡から銅銭が出土する場合、ほとんどは表紙の写真のように、表面に緑色のさびがついています。

ところが、写真のものはまるで新品の10円玉のよう。造られた当時そのままの輝きに、みんなびっくりしました。

写真の銅銭は「元豊通宝（げんぽうつうほう）」といって、今から約900年前に中国で造られたものです。